一　般　演　題

1～4.

土器　訓弘
（座長　福岡大学・放）

1.　RI in vitro 検査は，放射線科医師管理のもとに，放射線技術員による検査が望ましく，種々検査の Data 管理を主行務にすべきであると思う．

2.　手指の被曝軽減は大切なことである．自家製 RI 注射筒カバーの開発等により改良が望まれるが，注射手技による不便さを考慮して改良をかさねてほしい．

3,4. CEA Radioimmunoassay Kit（ミドリ十字）は，従来発表されている CEA (Roche) Kit, CEA (Dinabot) kit と相関がみられ，悪性腫瘍の follow up には有用であると考えられ，また α-フェトプロテインと同時測定により，原発生肝癌，転移性肝癌の鑑別に役立つと考える．

1.　長崎大学病院における RI in vitro 検査の現状と問題点

計屋　慧實　　本保善一郎
（長崎大・放）

RI 診療での In vitro 検査の種目は年々増加している．通常これらの検査は，放射線部，検査部，あるいは施設で，各科医師個人によって行なわれているのが現状である．

本院ではルチーンな In vitro 検査はすべて放射線部で行なわれ，その数は 14 種目 におよんでいる．

RI In vitro 検査室での一般的問題点は，1. 定員 2. 設備 3. RI 管理 4. 健保 5. 健康管理（検体感染）6. その他であるが，これらは各施設の共通する問題であり，行政官庁も理解するところである．

一方検査室の運営については異論のあるところであろう．すなわち，1. 核医学講座関係者による 2. 放射線科関係者による 3. 内科系関係者による 4. その他関心の深い人による 5. その他の方法などである．（ただし，3, 4, 5 による場合，第 1 種放射線取扱主任者の有資格者であること）．

各施設の特殊性をふまえた上で，RI In vitro 検査室の「望ましいあり方」についてわれわれの現状を報告して，諸先生の御意見をうけた．

2.　自家製 RI 注射筒カバーについて

菅　　和夫　　松岡順之介
（小倉記念病院）

RI 検査時の被検者の被曝はラベリングや患者への注射時に被曝することが多く，それも指など局所被曝は大であると考えられる．

当院では特に ^{99m}Tc を主体に Pb 板 1mm と含鉛ガラスを利用して，注射器用遮蔽筒を作り，ラベリング時や注射時に使用して被曝の軽減化をはかっている．

遮蔽筒を使用すると 1/15～1/20（シンチカメラによる測定）に低軽が可能である．

また，注射前後の注射器の保存も，不用の Pb を利用して厚さ 8 mm の箱を作り，遮蔽効果を上げている．

3.　CEA Radioimmunoassay Kit（ミドリ十字）の使用経験（基礎的研究）

○竹本　律子　　松岡順之介
寺田　美緒
（小倉記念病院・放）

血中 CEA の測定には，Z ゲル法，One-Step Sandwich 法などが kit 化されている．今回，CIS によって開発された CEA, RIA kit を使用する機会を得たので，いくつかの基礎的な検討を行なった．その結果を報告する．

〔方法〕

使用説明書に従い，血清を用いてインキュベーション温度，時間，再現性，One Step Sandwich 法との相関を検討した．

Presented by Medical*Online